

中国電力環境懇話会

当社の環境への取り組みについて、社外の有識者から評価・意見をいただくため、2002年4月から「中国電力環境懇話会」を設置しています。

●中国電力環境懇話会委員

(2017年7月現在)

団体・役職	氏名
県立広島大学大学院経営管理研究科 客員教授	(座長) 吉長 成恭
株式会社みずほ銀行 広島営業部 部長	飯田 豊
鹿島建設株式会社 中国支店 執行役員支店長	池上 隆三
一般財団法人広島県環境保健協会 環境生活センター センター長	香川 由里
株式会社中国新聞社 論説主幹	佐田尾 信作
株式会社広島ホームテレビ 報道制作局長	佐藤 以誠
株式会社中国放送 企画総務局次長	寺内 優
公益社団法人広島消費者協会 会長	徳田 洋子
広島大学大学院国際協力研究科 特任教授 (名誉教授)	中越 信和
マツダ株式会社 常務執行役員	圓山 雅俊

(敬称略・座長を除き50音順)



2016年度 第2回環境懇話会 三隅発電所視察 (2016年11月30日)

三隅発電所において最新の発電技術やバイオマス混焼によるCO₂排出削減および石炭灰の有効利用の取り組みについて視察いただき、以下のようなご意見をいただきました。

ライフサイクル全体での環境貢献の評価・発信を

- ・発電所内の取り組みだけでなく、石炭の採掘から輸送、発電、石炭灰の有効利用に至る一連の取り組みが、どのように環境負荷低減に繋がっているか定量的に示すことができれば、石炭火力発電に対する理解が深まる。
- ・Hiビーズによる環境修復事業について、廃棄物の有効利用や水質改善の視点だけでなく、自然の物質循環への貢献など、大きなライフサイクルの中で社会的便益を評価してはどうか。
- ・産業廃棄物の処理について、一般の生活者はほとんど知らない。企業努力による有効利用の取り組みについて、積極的に発信してもらいたい。

CO₂排出低減に向けた企業努力の継続を

- ・地球温暖化防止は重要な課題。家庭における取り組みも必要であり、毎日使用する電気に目を向ける必要がある。その意味では石炭火力発電の存在は大きく、企業努力の継続をお願いする。



2017年度 第1回環境懇話会 (2017年7月5日)

中国電力グループ環境行動計画の2016年度の取り組み結果を説明し、以下のようなご意見をいただきました。

環境行動計画の目標達成に向けて

- ・環境行動計画について、マイルストーンを設定し組織的に取り組んでいることを評価。電気事業全体の目標達成には大変な努力が必要であり、計画的に取り組んでもらいたい。

ステークホルダーとの環境価値の共有を

- ・取り組みを通じて地域との共生を図ることが、事業の持続可能性を高めていくことに繋がる。
- ・金融機関などは、環境的視点に立った投資判断が必要であり、それが環境価値の連鎖に繋がる。中国電力も環境に対する価値観を各ステークホルダーと共有してほしい。

次世代を担う人材育成・確保の継続を

- ・次世代層へのエネルギー環境教育の取り組みを評価。子供たちに様々な機会を通じて電気の供給に係る苦勞を伝えていく必要があり、情報発信の充実をお願いする。
- ・廃炉を含めた原子力技術の発展には、優秀な人材を確保する必要がある。原子物理学を専攻する学生を増やすため、事業者が採用を継続することが重要。